

# 前立腺がん

## PSA検査で早期発見 手術はロボット支援で 急速に進歩



羽賀 宣博(はが のぶひろ)氏プロフィール  
福岡県立医科大学卒、同大学医学部泌尿器科学講座助教授、同講師、同准教授などを経て2020年から現職。日本泌尿器科学会専門医、ロボット手術認定医、泌尿器ロボット支援手術プロクター、日本泌尿器学会専門医、日本小児泌尿器科学会認定医。

前立腺がんは前立腺の細胞の異常増殖によって起こります。骨やリンパ節などに転移することもあります。ゆっくりと進行するのでPSA検査によって早期発見できます。放射線治療と手術などによって治療しますが、手術の技術は劇的に進化した。特にロボットの導入によって術後のQOL(生活の質)を維持できるようになりました。

福岡大学医学部腎泌尿器外科学講座主任教授・診療部長の羽賀宣博先生に病状や治療についてお聞きしました。

### 経過観察も治療選択肢の一つに

治療はどのように進められますか。  
骨やリンパに転移していないかなどを検査する「ステージング診断」をして、それによって治療のやり方を決めます。大きく分けて、「監視療法」と「放射線治療、手術」という3つの方法があります。悪性度が低い場合は「監視療法」を選ぶ場合もあります。監視療法はとくに治療はせず、PSAや定期的な前立腺生検をしながら経過を観察します。5年間でがんが進行する方が半数おられますので、病状に応じて治療します。

### 放射線や手術で治療

放射線治療と手術について教えてください。  
放射線治療と手術にはそれぞれメリット、デメリットがあり、最終的には患者さんご本人に判断していただくことになります。  
放射線治療のメリットはメスを入れないことです。治療後にも長期間男性ホルモンをブロックする注射や飲み薬が必要になる場合があります。  
男性更年期のような、ほてり感や発汗などの症状が出る場合もあります。

### 手術時間は3〜5時間

ロボット支援手術のメリットは、  
ロボットを使って医師が執刀する「ロボット支援手術」が急速に進歩しています。患部を3D(スリーディー)の立体画像で拡大できるので細かい操作ができます。  
通常は4〜6か所切開しますが、福岡大学では九州で初めて1か所の切開で手術ができる最新の機器を導入し、患者さんの負担が格段に軽くなりました。転移などがない場合、手術時間はロボットのセッティングも含めて3〜5時間で可能です。

### 低侵襲治療の研究も進む

患者の負担も軽減できます。数CC(数十CC)くらいで終わるよう劇的に改善しています。私たちはこれまで以上に良い治療を提供したいという思いで、血管を光らせてその周りの神経を温存する研究にも取り組んでいます。

### 早期発見でQOL維持を

手遅れにならないために大事なことは、  
早期発見のためにはPSA検査が最良です。「腰が痛い」と整形外科を受診してPSAの数値が高いことが分かり、骨への転移が見かかるとケースもあります。早期に治療すれば90%以上の方が長生きし、治療後のQOLも維持できます。定期的にPSA検査を受けるように強くお勧めします。

### 男性だけに発症

前立腺がんはどのような病気ですか。  
前立腺は男性だけにあり、精液の一部を分泌する臓器です。精子は睾丸で作られ、精囊や前立腺の液と混ざって精液になります。前立腺の外側の部分にできやすいのが前立腺がんです。  
近年急激に増え、日本では男性のがんの有病率の1位です。その大きな原因は高齢化に加えて、PSA検査(※)によって比較的早期に発見できるようになったためと言われています。

### 進行すれば転移

症状についてお聞かせください。  
初期はほとんど症状がありません。

### 「融合生検」で的中率向上

どのように診断しますか。  
PSA検査で、異常が見つかれば、MRIとエコーの画像

を合体させて、がんの部分だけをターゲットにする「MRI超音波融合生検」によって組織や細胞の一部を採取し、詳しく調べます。  
融合生検によって、がんの的中率が飛躍的に向上しました。

### 検査は3〜4か月

診断の時間は、  
PSA検査から診断まで3〜4か月かかります。患者さんの中には「その間に悪くなりませんか」と心配される方もおられますが、ゆっくり進行するので数か月で手遅れになる心配はありません。

